

心豊かな子ども 学びを深める子ども 健康な子ども 「今日が楽しく明日が待たれる瑞光小」

# 瑞光だより 12月号

荒川区立瑞光小学校 校長 渡邊 滋

## 音楽の授業と音楽会

～第5の習慣 わかってあげてから、わかってもらう。お互いにわかりあう。～

校長 渡邊 滋

11月15日（金）、16日（土）に久方ぶりの音楽会を開催することができました。子供たちの発表は、目を見張るほど見事なものです。児童鑑賞日の子供たちの態度も優れたものでした。演奏等の素晴らしさに圧倒されたことありますが、相手意識をもち、心をこめて鑑賞する気持ちも強く感じました。本校では音楽科の指導を、1、2年生は担任が、3年生（含む1年生1クラス）は都講師が、4年生以上は染谷主任教諭が行っています。しかし、音楽会は音楽科を指導している教員だけの行事ではありません。技能向上だけを求めるのではなく、本番までのプロセスも重要です。本校の教職員も運営を含めた全ての内容で一致団結して臨みました。

そんな音楽の授業での日常の1コマ。4年生の授業。授業開始まで、子供たちは思い思いにリコーダーの自主練習を行う。音楽の染谷先生がおもむろに伴奏弾き始めると、誰ともなく姿勢を整え、自主的に演奏モードに突入する。決して「〇〇をやります」とか「しなさい」とは言わない。子供たちは、黒板に張り出してある「めあて」を十分にチェックした上で、それぞれがめあてをもって演奏に取り組む。この4年生の授業では、染谷先生は音楽会に向けて「何を重点におくか」を子供たちに問いかけました。教材の一つは箏での演奏『さくらさくら』です。そして、子供たちが重点においたのは「自由リズム」。意味は「明確な拍節感をもたず、特定の拍子を聞きとりにくいリズム様式」であるとのこと。日本の伝統音楽においても、拍の伸縮を生かして演奏される様式は大切にされてきたようです。そして何より、この難しい挑戦を何より子供たち自身が選択したのです。

さて、この授業を参観して、自身の日々の教育観を改めて考えさせられました。担任経験を思い出しても、これほどまでに子供たちを信じて、託して、任せて来られたのだろうか。これほどまでに子供たちが選んだ選択肢を更なる成長の段階まで高められたのだろうか。保護者の一人として、我が子に対して「待ち」の姿勢をもてたのだろうか、と。本校は「人権尊重教育推進校」であります。ややもすると「人権」を難しく捉えがちになりますが、子供が主体の授業を進めていくことで、子供の自発性を育てることで、まさに人を大切にする成長を「音楽科」を通して培うことができました。



### ～ 今月の生活指導 ～

12月の生活目標は、「体調管理に気を付けましょう」です。

急に気温が低くなり、学校を欠席する児童が多くなりました。以下の症状が主な欠席理由です。

**発熱・頭痛・せき・のどの痛み・嘔吐・**

**マイコプラズマ感染症・溶連菌感染症・インフルエンザ・感染性胃腸炎**

体調が悪いときは無理して登校せず、病院を受診し、ゆっくり休んで回復させることが大切です。また、毎日本体温計で熱を測ったり、トイレで便の様子を見たりして、体調の変化に気付ける工夫をすることも大切です。

寒い季節は、気温に応じた服装で過ごすよう指導しています。衣服で体温を調節しながら健康に過ごせるよう、登校するときの服装についてご家庭で話題にしてみてください。

令和6年度12月の行事予定

		授業日数18日 給食日数18日	寺子屋	クラブ	委員会	S C
日	曜	行事 ( )は学年				
1	日					
2	月	【読】委員会(5・6)	○		○	
3	火	【読】区学力向上のための調査	○			◇
4	水	【心】特別時程 4時間授業(全)	×			
5	木	【そ】	□			○
6	金	【読】研究発表会 5時間授業(全)	×			☆
7	土					
8	日					
9	月	【朝】クラブ(4・5・6)	○	○		
10	火	【読】色覚検査(4) TGG(6)	○			◇
11	水	【心】4時間授業(全) 避難訓練	○			
12	木	【ユニセフ集会】	□			○
13	金	【そ】社会科見学(3)	○			☆
14	土					
15	日					
16	月	【読】クラブ(4・5・6)	○	○		
17	火	【読】セーフティ教室(6)	○			◇
18	水	【オ】	○			
19	木	【そ】社会科見学(4)	□			○
20	金	【読】なかよし班活動(全)	○			☆
21	土					
22	日					
23	月	【朝】クラブ(4・5・6) 4時間授業(1) 副籍交流(2-3)	△	○		
24	火	【読】	○			◇
25	水	【終業式】4時間授業 安全指導	×			
26	木	冬季休業日始				
27	金					
28	土					
29	日					
30	月					
31	火					

★ 12月の主な予定等 ★  
**※発行日時点での予定です。変更される可能性があります。**

★TGG(6年)  
 10日(火)に東京グローバルゲートウェイに行き、エージェントのご指導の下、英語学習のプログラムを体験します。

★ユニセフ集会  
 ユニセフの活動やその意義について、代表委員会が全校に紹介します。また、16日(月)~18日(水)の登校時間帯に募金を呼びかけます。

★社会科見学(3年)  
 諏訪神社や荒川遊園などに行き、荒川区にある施設や土地のつくりの特徴を学びます。

★セーフティ教室(6年)  
 東京ダルクから講師をお招きして、依存性薬物の心身への影響等のお話を聞き、薬物乱用防止について学びます。

★社会科見学(4年)  
 19日(木)にミナトリエに行き、東京湾について学んだり、ソナエリアに行き、体験活動を通して防災について学んだりします。

※特別時程の日の下校時間帯は、12時45分~13時00分となります。

研究発表会の日の下校時刻は、1~5年生：14時20分

6年生：14時40分となります。

~月行事予定の見方~

【朝】 全校朝会  
 【読】 読書

【そ】 そうじ  
 【心】 心のじかん

【児】 児童集会  
 【体】 体育朝会

【オ】 オリパラの時間  
 【安】 安全指導の時間

寺子屋 放課後の「あらかわ寺子屋」に参加できる日

○・・・全学年参加可能

△・・・1年生以外参加可能

□・・・1・2年生以外参加可能

S C 禿 愛子先生の勤務日：◇印 渡邊葉月先生の勤務日：☆印 佐藤智之先生の勤務日：○印



## 音楽会

11月15日（金）、16日（土）、瑞光の体育館で数年ぶりに子供たちの明るい歌声、美しい音色が響き渡りました。

瑞光小の音楽会は、テーマを音楽で表現して思いを伝えることを大切にしています。今年の音楽会の全体テーマは「音楽の絆～心をつなぐハーモニー～」、絆を大切に、各学年のテーマに向かって音楽を創っていきました。

低学年は「輪」（1年）、「世界と遊び」（2年）。友達と関わり合いながら歌ったり踊ったり遊んだり、音楽の持つ本来の楽しさを友達とともに表現しました。約100人の合奏は、友達と協力することではじめて合わせることができました。



中学年は「チャレンジ」（3年）、「音色」（4年）、瑞光小では3年生で初めてリコーダーを学びます。発声のしかたを学び、音楽室の大きな楽器にも初めて触れます。何にでも挑戦するそんな気持ちを音楽で表しました。4年生は、さらにその楽器のもつ美しい音色を表現すること、初めてのお琴も、和の音色、情景を思い描いて皆で協力してアレンジし、工夫して創っていくことを心がけました。



高学年「地球」（5年）、「時空」（6年）。高学年は、大事にしていきたいこの地球、遙か昔から現在、そして未来へと、大きなテーマを音楽にしました。特に歌は、CDや動画を聴いたり見たりしながら、自分たちで練習を重ねて本番を迎えました。自分の努力はもちろん友達同士の支え合い、協力、励ましなどの大切さを実感できたのではないのでしょうか。

子供たちの本気を受け止めていただけたら幸いです。ありがとうございました。



## 合唱鑑賞教室

10月29日（火）、サンパール荒川で、武蔵野音楽大学室内合唱団の方々による、区の合唱鑑賞教室が行われました

第一部のオープニングは「いのちの歌」、「群青」です。学校でも歌ったことのある「いのちの歌」、そして、東日本大震災で離ればなれになってしまった友達を想ってつくられた「群青」、情景が思い浮かぶような美しい歌声に、子供たちは聴き入っていました。

第二部は、合唱の各パートの紹介でした。ソプラノやアルトの遠くに響く高い声、テナーやバス迫力ある低い声、そしてそれぞれの特徴を生かした様々な歌に、子供たちは心から拍手を送っていました。

第三部では、合唱団の方と共に歌ったり、曲に合わせて手拍子したり、会場全体で音楽を楽しみました。なかでも、全員合唱の「ビリーブ」、荒川区民の歌「あらかわ～そして未来へ」の会場全体に響き渡る子供たちの歌声は圧巻でした。

「歌うことの楽しさ」「声を合わせるハーモニーの美しさ」「思いを伝える表現力」など、この合唱鑑賞教室で学んだことを、子供たちは、音楽会で生かすことができたのではないかと思います。

保護者の皆様には、服装のご準備等、ご協力ありがとうございました。

## 起震車体験

4年生は11月6日（水）の避難訓練にて、起震車による地震体験を行いました。阪神淡路大震災や東日本大震災で実際に起きた震度を起震車で再現してもらい、子供たちが体験しました。

今回は、揺れを感じても机の下に入らず、いすに座った状態でおよそ1分間の揺れが収まるまで自分の身を守るという訓練でした。一度激しく揺れた後、揺れが収まったと思っても、さらに続けて大きな揺れが繰り返されることを知った子供たちは、完全に揺れが収まるまで真剣に訓練に臨んでいました。

起震車の中では、家具や机が固定されているため、周りのものが大きく移動してきたり、ガラスが割れて破片が飛び散ったりするということはありませんでした。地震体験を終えて、自宅では安全に身を守ることができるか、学校の昇降口にいるときや、登校中、下校中に地震が起きたときは、どのように身を守ればよいかを考えました。日頃から、非常時の行動や約束事をご家庭でも話し合い、イメージしておくことが重要です。荒川区防災課の方の話をうかがって、災害時の被害ができるだけ小さく済むように備えておくことの大切さを学びました。

